

午後試験

問 1

問 1 では、勤怠管理システムの導入を題材に、問合せ対応業務の改善について出題した。全体としての正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようである。

設問 2 の d, e では、エとする誤った解答が多かった。表 1 に示した問合せの分類が正しく理解できていなかったことが原因と思われる。

設問 3 の h では、イ又はエとする誤った解答が多かった。正解の“FAQ”という言葉が知らなかったことも一因と思われる。一般にもよく使われる言葉なので、是非知っておいてもらいたい。

問 2

問 2 では、2 年間の売上データを題材に、表やバブルチャートを使ったデータの分析について出題した。全体としての正答率はやや低く、幾つかの問題では解答に大きなばらつきがみられた。

設問 1 では、特に b の正答率が低かった。予算費のような“比率”の小計の意味を正しく理解できていないことが原因と思われる。

設問 3 では、g の正答率と比べて h 及び i の正答率が低く、この二つでは解答のばらつきも大きかった。幾つかの商品について位置する象限と変数の増減を整理すれば、正解を導けるはずである。

問 3

問 3 では、執務室の入退室管理を題材に、データベースから分析に必要なデータを得るための SQL 文の作成と、得られたデータの分析結果に基づく業務改善について出題した。全体としての正答率はやや低く、幾つかの問題では解答に大きなばらつきがみられた。

設問 1 の c, d は特に正答率が低く、d ではアとする誤った解答が大変多かった。中間表には、入室記録がある場合に限ってその回数が記録されることに注意すれば、正解を導けるはずである。

設問 2 の h では、イ又はウとする誤った解答が多かった。人事異動という人の動きと、データベース上でのデータの動きの関連付けが適切にできていないことが原因と思われる。

問 4

問 4 では、建物内に敷設された IP ネットワークを題材に、サブネットワークの構成、IP パケットの転送処理、及び障害の切分けについて出題した。全体としての正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようである。

設問 1 では、a をウ、b をイとする誤った解答が多かった。ネットワークアドレスやサブネットマスクに関する知識は、ネットワークの運用に必要な基礎知識であるので、十分に理解しておいてもらいたい。

問 5

問 5 では、財務諸表に基づく経営状態の分析について出題した。全体としての正答率は平均的であった。

設問 1 では、経常利益の意味を問う b の正答率が低かった。営業利益、経常利益、純利益は、様々な視点から企業の収益性を分析するための指標である。それぞれの意味を正しく理解しておいてもらいたい。

設問 3 の l では、ウやくとする誤った解答が多かった。複雑な条件を表の形式に整理して分析することは、日常の業務でもよく行う。表やグラフを効果的に使いこなす訓練を心がけてもらいたい。

設問 4 の o は、正答率が低かった。発生する費用の種類と影響する利益の関係を正しく理解していれば、正解を導けるはずである。

## 問 6

問 6 では、スーパーマーケットの注文管理システムを題材として、E-R 図や DFD を利用したシステム設計について出題した。全体としての正答率は平均的であった。

設問 2 では、d, e, h, i の正答率が低かった。E-R 図における関連の多重度及びデータベースの主キーに関する知識は、データベース設計の基礎となる事項である。主キーや多重度が何であるかを知っているだけにとどまらず、その知識を与えられた状況に適切に適用する応用力を身に付けてもらいたい。

設問 3 では、k, m, n の正答率が低かった。データベースの開発方針や処理プロセスの開発方針を基に、プロセスごとに必要なデータ項目とデータストアの関係を識別することで、正解を導けるはずである。

## 問 7

問 7 では、設備投資に関する意思決定を題材に、決定木と表計算ソフトを使った投資計画の評価について出題した。全体としての正答率は低かった。

設問 1 の f では、カとする誤った解答が多かった。販売数量は注文数量と製造能力との両方から決まることに注意すれば、正解を導けるはずである。

設問 2 では、特に i と j の正答率が低かった。決定木の階層構造とワークシートの表形式との間の対応関係が十分に理解できていないことが原因と思われる。